

## 二本のきょうされん 40 周年記念映画の紹介

### ■映画【星に語りて—Starry Sky】



きょうされん結成 40 年を考えたときに、近年の 10 年間で、東日本大震災をはじめ、熊本地震などの被災地の支援の活動は外すことができません。

残念ながら、社会的には被災地への思いや震災の脅威についての風化が進んでいます。他方で、被災地となったきょうされんの加盟を含む多くの事業所の利用者や家族、職員の苦悩と不安は続いています。熊本地震も同じような問題を抱えています。東日本大震災の最大の支援は、「震災を忘れまい」です。

れまい」です。

そこで、「東日本大震災と障害のある人」を主題としたドラマ風の長編映画『星に語りて—Starry Sky』（約 120 分間）の制作を企画しました。未曾有の大震災にあつて、懸命に生き抜こうとする障害のある人と家族の姿、それを支える支援者の奮闘、それらを厳しさとやさしさ、折々のユーモアで表現する事実を元にしたドラマとなる予定です。

きょうされんは、この映画『星に語りて』を通して、「東日本大震災を忘れない」を確認し、同時に、新たな大規模自然災害への備えの力を高めることの大切さを発信していきたいと思います。遅々として復興の進まない福島（原発問題）と東北沿岸部の辛苦を社会に広く訴えていきたいと思います。

### ■映画【夜明け前—呉秀三と無名の精神障害者の 100 年】



障害分野のなかでも、精神障害の分野は「遅れた障害」と言われ、社会からの理解及び制度の整備の状況は他障害と比べ、まだまだ大きな差が生じています。近年、大阪の寝屋川市や兵庫の三田市では、実際に自宅に監禁された障害者がいたことが報道されました。日本の精神医療の父と称される呉秀三が百年前に訴えた「二重の不幸論」をはじめ提起された多くは、現代の精神障害分野の本質問題と重なります。

ます。

2018 年は、呉秀三が行なった本格的な「座敷牢調査」から 100 周年にあたり、歴史の大切さと精神障害分野をめぐる今日の課題を重ねながらの企画として、『夜明け前—呉秀三と無名の精神障害者の 100 年』（66 分間）を制作し、今回の映画で、日本社会に呉秀三のことをもっと知ってもらい、その主張の今日的な価値を説くことすすめていきます。精神医療関係者を含めて、障害分野の関係者にも観てもらい、遅れた精神障害分野の課題に対して、地域から一石を投じていきたいと考えます。